

DM Topics

for Nursing

特集

糖尿病患者さんが抱える「ステイグマ」とは？

「糖尿病であることを、他人に知られたくない」そんな患者さんは決して少なくありません。人種や宗教など、特定の属性に対して差別や偏見を受けることを「ステイグマ」といいます。ギリシャ語が語源で、刻印や徴(しるし)といった意味があります。皆さんも看護の中で、糖尿病患者さんが抱えるステイグマを感じられることはないでしょうか。

監修

関東労災病院
糖尿病・内分泌内科 部長
浜野 久美子 先生



「糖尿病」という病気に対する世間の偏見などから、患者さんが孤立したり、必要な治療サポートが受けられない(受けようとしにくい)ケースがあります。昨年11月に日本糖尿病学会と日本糖尿病協会が「アドボカシー*委員会」を設立し、この問題に取り組もうと動き出しました。

例えば、糖尿病は「不治の病」で、失明や腎不全による「死」と直結するイメージがまだに残っています。そもそも糖尿病は、血糖を良好に保てば健常者と変わらず生活できる病気です。血糖コントロールのための薬剤や医療機器も、この半世紀でずいぶんと進化しました。にもかかわらず、糖尿病があると生命保険に加入しづらい、住宅ローンの契約が難しい、就職のハードルになるなど、社会的に不利益を被るのは非常に残念なことです。

また、「糖尿病になったのは、自己管理ができていないから」という見方は、患者さんをずいぶんと苦しめていると

感じます。1型糖尿病患者さんはもちろんのこと、2型糖尿病患者さんでも、病気の背景に遺伝子や社会環境が大きく関与する場合にも、ご自身を責めてしまわれることが少なくありません。こうした「病気はご本人の責任」といった考え方は、患者さんの自己肯定感を低下させます。結果、療養に後ろ向きになったり、怒られるから診察に行きたくない」と治療を中断したり、誰にも相談せず1人で悩んでしまつというつながりがちです。

「インスリン分泌不全症候群」などにして1型糖尿病と2型糖尿病の違いを明確にしてほしい」という意見まで、さまざまなアイデアや意見が挙げられてきましたが、変更には至っていません。たかが病名、されど病名です。「痴ほう」が認知症に、「精神分裂病」が統合失調症に名称を変えた経緯や効果も踏まえ、今後議論がされるべきと考えます。

そもそも「糖尿病」という病名が問題なのではないか、という意見もあります。例えば、友人と食事をする際に、排泄物の名前がついた病名を口にするのには抵抗を感じる方も多いでしょう。病名変更に関する議論は実は歴史が古く、日本糖尿病協会で意識調査が実施されたことでもあります。古くは「甘血」という名称から、「合併症を起こしていない段階であれば、『病』でなく『高血糖症』でいいのではないか」という意見や、

今や、予備軍を含む2千万人、成人の4人に1人が関係する国民病ともいえる糖尿病です。患者さんが人の目を気にせず、治療に専念できる環境づくりも、私たち医療従事者の仕事の1つではないでしょうか。



*アドボカシー…社会的弱者やマイノリティーの権利を擁護すること

NEWS

ニュース まとめ読み

最近注目のニュースをご紹介します。

詳細はこちら

糖尿病リソースガイド
<http://dm-rg.net/>



「フレイル健診」が4月からスタート 後期高齢者のフレイル対策を強化

DM RG

4月から、いわゆる「フレイル健診」がスタートしました。今後は健診の際に、フレイルの状態になっているかをチェックする「後期高齢者の質問票」が導入されます。新しい質問票は「6カ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか」「以前に比べて歩く速度が遅くなってきているか」といった15項目の質問で構成されています。

日本糖尿病協会が「防災リーフレット」を公開

DM RG

日本糖尿病協会は、災害発生の前後で役立つリーフレットを制作しホームページで提供を開始しました。表面には「災害に備える」ために非常時携行品リストや、薬剤名、避難所情報等の連絡先記入欄、災害発生時の心得が掲載されています。裏面には「避難生活乗り切る」ための食事と運動のアドバイスが紹介されています。四つ折りにして「糖尿病連携手帳」に挟み込めるように設計されています。

2学会が合同で発表。糖代謝異常者における 循環器病に関するステートメント

DM RG

日本循環器学会と日本糖尿病学会は「糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメント」を発刊。糖尿病が動脈硬化を悪化させることで、心筋梗塞などの虚血性心疾患や脳卒中、大動脈瘤、末梢動脈疾患を惹起することが明らかになっています。

低血糖の救急処置にはじめての点鼻剤 グルカゴン点鼻粉末剤が承認取得

DM RG

注射剤以外の低血糖治療薬としてグルカゴン点鼻粉末剤(日本イーライリリー)が承認されました。室温(1~30℃)で持ち運びができる1回使い切りの製剤で、看護者(家族など)が投与することで重症低血糖の救急処置ができるとしています。

4コマ劇場

糖尿病看護の“あるある”体験談

実際の体験談を
4コマ漫画化!

第3回「高齢患者さんのインスリン注射」

神奈川県 30代 みいちゃんさん(看護師歴13年)

ご高齢の患者さんが、インスリン注射を空打ちされた際の“ほっこり”したエピソードです。目が悪いために注射器から出てくる薬剤が目視できず、また指が濡れる感触もなかったようで、慌てた患者さんの手元がブレて、薬剤が明後日の方向に飛んでしまいました。

Nurse's advice

木下Ns.の一言アドバイス

ご高齢で視力低下、手指の動きにも不便がある中で、2単位の空打ちに取り組んでおられる姿、本当に応援したいですね。空打ちの確認には、手の甲を差し出して、飛ぶインスリン液で甲が濡れるのを確認する、または色紙に液を飛ばして濡れて色が変わることを確認するというのはどうでしょうか。そもそも空打ち自体が忘れがちな手技です。まずは「空打ち」を忘れないということに焦点を置いて練習してもいいと思います。

木下 久美子 先生(関東労災病院 糖尿病看護認定看護師)

詳細はこちら▼

体験談募集中! /

皆さんの「元気になる」「ほっとする」エピソードを
お待ちしております。採用された方にはプレゼントも!



教えて、MRさん!

Q インスリン注入器使用時の「空打ち」の排出量は?

一般に、インスリン注入器の空打ちは「2単位の排出」とされています。これは、細い針先からインスリンがきちんと排出されていることを肉眼で確認するために必要な量として採用されてきた液量です。

初期設定のための空打ちではピストン棒がゴムピストンに密着するまで空打ちを繰り返すので、1回のピストン棒の移動距離が長い方が容易です。また、空気抜き目的では、空気を排出しつつ針先からのインスリンの排出状態も確認できる量が必要となります。

以上から、空打ちの液量は、1単位ではなく2単位が適量とされています。しかし、ランタスXRノロスターでは例外的に「3単位」とされています。

Q インスリンのバイオ後続品(バイオシミラー)はあるの?

インスリン グラルギン(持効型溶解インスリン製剤)のバイオ後続品が発売されています。また、インスリン リスプロ(超速効型インスリン製剤)のバイオ後続品が2020年3月に承認されています。

バイオ後続品の患者への適切な情報提供を推進する観点から、令和2年度の診療報酬改定において「在宅自己注射管理料」が見直されました。バイオ後続品に関わる説明を行い、バイオ後続品を処方した場合には「バイオ後続品導入初期加算」として150点が所定点数に加算されます*。

* 当該バイオ後続品の初回の処方日の属する月から起算して3月を限度とする。